土木学会第50回年次学術講演会（平成７年９月）

高齢化社会に対応した道路整備に関する調査

建設省　秋田工事事務所　　戸嶋　守
（正会員）　　山本荘輔
渡邊松男
佐藤正人

１．はじめに

高齢化の急速な進行が、我が国の経済社会活動へおよぼす問題は、年々深刻となってきており、高齢化社会に対応した交通基盤の整備は、緊急の課題となってきている。

なかでも秋田県は高齢化率18%（平成5年）で、全国平均の13%よりもかなり早いペースで高齢化が進行しており、厚生省人口問題研究所の報告によれば平成17年には27%まで上昇し、全国一の高齢化県となることが予測されており、高齢化に対する積極的な取り組みが必要不可欠となっている。

このようなことから、本調査では交通基盤、特に高齢化社会における道路整備方針について検討を行うものである。

２．調査の概要

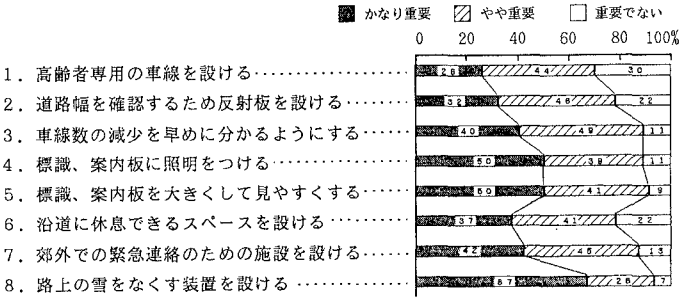
道路交通施設について具体的構造の提案を図るため、高齢者の意識調査を行い現状分析により、高齢化社会における道路整備の問題、課題の抽出を行うものである。調査対象地域は、秋田市を中心とする半径30㎞の圏域2市11町1村とし、地域内の老人クラブへの配布とし、有効回収数739人、回収率70%であった。

３．意識調査による交通環境の評価

歩行環境に関しては、「全体的にみて歩きにくい」とした割合は夏期で36%、冬期で70%となっている。

そのなかで、問題の大きい項目は夏期で「狭い道に車が入る」37%、「休息できるベンチがない」37%となり、冬期では「車の水はね」65%、「歩道の積雪・凍結」64%があげられ、冬期外出率低下の要因となっている。　また、徒歩で外出に困難のあるグループは冬期のバス利用が30%と多く、バスの利便性の向上が望まれている。

道路構造全般に対しては「路上の雪」、「標識、案内版の見やすさ」、「緊急連絡のための施設」等安全性とサービス的機能性への要望があげられている。



図－１　道路構造全般への要望

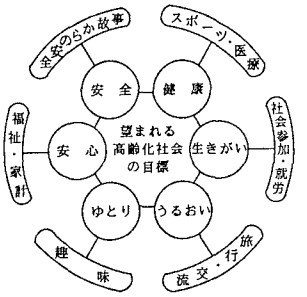
４.望まれる高齢化社会の要素

生活意識の多様化や余暇時間の増大から高齢者の生活様式は、かなり多様で広範囲な活動が予想され、交通施設の整備においても、高齢者が希望しているライフスタイルを支援する道づくりが必要とされている。

望まれる高齢化社会の交通要素

- 様々な交通手段を利用して外出できる
- 天候に左右されず外出できる
- 精神的にも、体力的にも楽に自由に移動できる
- 自分の意志で人に遠慮なくいつでも外出できる
- 広域的な活動ができる

図－２　望まれる高齢化社会の目標イメージ図



５．基本方針の設定

高齢者をとりまく現状の交通問題、さらに望ましい高齢化社会の要素を踏まえ、道路環境の課題から、望ましい道づくりの基本方針を設定する。

「高齢者の生活の場を広げ豊かで生きがいのある生活を支援する道づくり」

６．整備計画の検討

望ましい道路環境要素の検討をする。

望ましい歩行環境

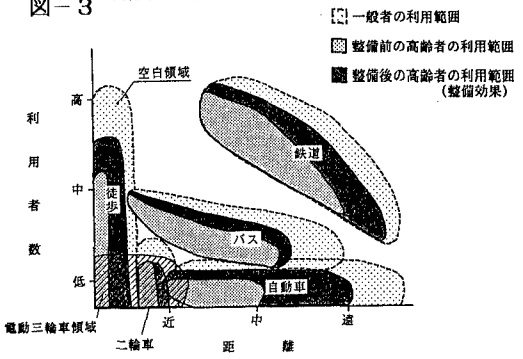
- ■ 歩行者空間の確保
- ■ 歩行区間の安全性の確保
- ■ 歩行空間の快適性の確保
- ■ 移動性の確保
- ■ 標示・誘導・情報の改善
- ■ 冬期間における安全性・快適性の確保

望ましい道路交通環境

- ■ ゆとりある道路構造の確保（安全性の確保）
- ■ 快適性の確保
- ■ 道路構造の単純化
- ■ 標示・標識・情報の改善
- ■ 冬期間における安全性・快適性の確保

７．整備効果

図－３　高齢者の利用範囲概念図における総合的直接効果



１）整備の直接効果
　１．歩行環境の改善
　２．自動車運転環境の改善
　３．高齢者交通事故死者数の減少
　４．行動範囲の拡大化
　５．外出率、外出回数の増加
　６．外出困難高齢者数の減少

２）整備の間接効果
　１．都市内交通の円滑化と都市機能の進展
　２．社会参加の活発化
　３．学習、医療圏域の広域化
　４．高齢観光者の増加
　５．高齢就労者の増加
　６．高齢者消費者の活発化

８．おわりに

今回の報告は、アンケート調査結果を基に道路環境整備により期待される効果までについて、紹介したものであり、今後は、ケーススタディを設定し、整備手法の検討・整備方針の策定を行い、来るべき高齢化社会に対応した道路事業に反映したいと考えている。

なお、本調査は学識経験者等の参加による「高齢化社会に対応した道づくり懇談会」により検討を進めているものである。